

中学校 道徳 部会

部会長 大任中学校 校長 小田 玲子
実践者 大任中学校 教諭 真武 祐二

- 1 研究主題 自他を尊重する心をはぐくむ道徳の時間の研究
～ 他者とのかかわりから自己を見つめさせる実践を中心に～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

モラルの低下が指摘されている現代社会においては、他人のことを考えず、専ら個人の利害損得を優先させたり、物質的な価値や快楽を第一に考え、社会をよりよくしていこうとする真摯な努力を軽視したりする社会的風潮がみられる。このような状況は、社会全体の規範意識を低下させ、子どもが本来持っている人間としてよりよく生きようとする力を低下させることにつながりかねない。反面、大きな自然災害に際し、募金やボランティア活動に積極的に参加する人々の姿からは、他者の悲しみや苦しみを思いやる心が感じられ、相互に人間を尊重し信頼しあう人間愛の精神が、社会において醸成されていることを表している。そんな活動の価値に気づかせ、人と人が触れあう体験をさせることは、子どもの豊かな心を育むことにつながるものであると考える。

これからの学校における道徳教育は、そうした現代社会が持つ多面性をふまえながら、他者とのかかわりを通して、人間としての生き方の自覚を促し、道徳性を育成していく必要がある。

(2) 生徒の実態から

問題行動として顕在化している校内外での生徒の荒れの状態は、現在においても続いているといわざるを得ない。管内の平成22年度の生徒による暴力行為（対教師暴力・生徒間暴力・対人暴力・器物損壊）は、前年度までの増加傾向から減少に転じたものの、いじめの認知件数は横ばいであり、不登校生徒数は増加している。その原因として、規範意識の低下やコミュニケーション能力の不足といったことがあげられているが、人格形成の基盤となる道徳性を養うことを目的とした道徳教育が担う部分は大きいと思われる。

心身ともに発達著しい中学生の時期は、様々な葛藤や経験の中で自己を探求するようになる。時には感情や衝動の赴くままに行動し、自分の弱さを感じることもある。しかし、自己の探求は決して他の人々から隔離されたところで行われるものではない。なぜなら、必ず他者の在り方や他者とのかかわり方が、重要な役割を果たすからである。自分に対する仲間の態度や評価が、自己嫌悪のもとになったり、自信や自尊心の高揚につながったりする。こうした点で、学校における人間関係は、中学生の道徳性の発達にきわめて大きな意味をもつ。大きな影響力をもった仲間集団の中で、自己を失うことなく、調和的な関係を保つことは、中学生にとって大きな課題である。これからの人生において、生徒が属するであろうさまざまな集団の縮図ともいえる学校で、他者へのかかわり方や態度を自分の生き方として見つめるように促すことは、生徒の人間的な成長のために必要不可欠なものであり、道徳教育の重要な役割である。

3 主題の意味

(1) 「自他を尊重する心」とは

学習指導要領においては、生徒の内面に形成されていく自己及び他者の人格に対する認識を普遍的な人間愛の精神へと高めると同時に、それを具体的な人間関係の中で、日々の実践的態度として伸ばし、それによって人格の内面的充実を図ることを人間尊重の精神の趣旨として示しており、道徳教育はその基盤としての道徳性を養うことを目標としている。

本主題における自他を尊重する心とは、そうした人間尊重の精神に基づいた、自己及び他者の人格や権利、生命を尊重しようとする心のことである。それは、例えば交通機関において、高齢者や体調のよくない方などに席を譲ったり、けがをした友人に肩を貸したりするといった行為として表れるものであると考える。つまり、他人を思いやる心や社会貢献の精神、生命を大切にし人権を尊重する心などの人間としてよりよく生きていく上で必要な道徳的価値を、自分のものとして主体的にとらえた状態を示している。道徳の時間においては、そんな生き方の自覚が意欲的になされるように、生徒の実態に応じて指導方法を工夫をしていく必要がある。

(2) 「他者とのかかわりから自己を見つめさせる実践」とは

学習指導要領においては、道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目を4つの視点に分けて示している。そのうちの2の視点は、自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図ることに関するものである。(礼儀、思いやり・親切、友情・信頼、健全な異性観、寛容・謙虚、感謝)といった6つの道徳的価値はいずれも、他者を尊重し、豊かな人間関係を形成する際に必要となる人としての生き方が示されている。

思春期にある生徒は、大人や社会、友達との関係に様々な悩みや心の揺れ、葛藤を抱えている。その際、他者といかに接するべきかを考えることは非常に大切なことであり、自己の有り様が望ましい人間関係を形成するために大きな意味を持つことを自覚することで、精神的に成長することができると思う。そうした意味で、道徳の時間の指導において、自他を尊重する心を育むためには、2の視点に関わる実践を充実させることが必要となる。

4 研究の目標

田川郡全中学校で、他者へのかかわり方や態度を自分の生き方として見つめ、望ましい人間関係を構築することができるように「自他を尊重する心をはぐくむ道徳の時間」の実践を行う。

各学校での実践をもとに、2の視点・6つの内容項目に関する実践資料集を作成する。

5 研究仮説

2の視点・6つの内容項目に関する実践において、生徒にとって価値をとらえやすい資料の開発や分割・視覚化といった提示方法の工夫、効果的な発問や問い返しの構築といった指導方法を工夫することにより、生徒は他者へのかかわり方や態度を自分の生き方として見つめ、望ましい人間関係を構築することができるようになるだろう。

6 研究の計画（第1学年2組）

(1) 主題名 思いやりの心 内容項目 2 - (2)

(2) 資料名 「返事」(自作資料)

(3) 主題設定の理由

本学級の生徒は、中学校に入学してからのさまざまな学校行事において、友達と協力して努力することがおおむねできている。しかし、その活動ぶりをみると他者からの指示を受けて取り組むという場面において、困難なことに直面したり、自分の好きなことではなかったりすると、自分勝手な言動をとってしまうことがある。また日常生活においても、相手の気持ちを考えないからかいの言葉や人のいやがる行動をとってしまうこともある。

これは、他の人の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる本当の意味での思いやりの心が、十分につかめていないからではないかと考える。

そこで、学級や部活動などの様々な集団の中で互いに深く関わりあって相互理解を深め、それぞれの集団の中で人間的な成長を遂げるのに適したこの時期に本主題を設定する。そして、他者を思いやる気持ちの根底にあるものについて考えさせ、思いやりの心を持って生活しようとする心情を培う。このことは、ともすれば利己的・自己中心的な言動を取りがちな現代社会に生きる生徒に、相手の立場に立った言動のもつ温かさに気づかせ、豊かな人間関係を構築するために意義深いと考える。

元来、人間は1人では生きていけず、何らかの形で他者との関わりを持って生活を営んでいる。自分一人の力ではどうしようもない悩みを抱え、壁にぶつかったとき、他者からかけられた一言によって救われた気持ちになった経験は多くの人々が持っているだろう。人は、さまざまな困難や苦労に出会ったときにさしのべられた他者からの言葉や行為に、思いやりの心を感じ、感謝の念を抱く。また、自分も他者を支えることができる存在になりたいという気持ちを抱くことができる。他者とのそんな関係性が心の中に醸成され、蓄積されていったとき、自分が現在あるのは、多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚することができ、相互に人間を尊重し信頼しあう温かい人間愛の精神が深まっていくと考える。そうした生き方の素晴らしさを生徒につかませることが大切であり、それが他者との関わりを肯定的にとらえる生き方につながるものであると考える。

本資料は、病院に入院した主人公が、自分と同様に入院している年少の子どもの願いを聞き、その心を受けとめ、自分にできることを考え行動する場面を描いたものである。『相手の立場に立って考える』『相手のことを大切に思う』などの思いやりの根底にあるものが自然な形で表されており、生徒にとってつかみやすい資料であると考えられる。

本主題の指導にあたっては、他者を思いやる気持ちの根底にあるものについて考えさせ、思いやりの心を持って生活しようとする心情を培うことをねらいとする。そのため、資料を共感的に活用し、主人公の気持ちを考えさせることで、価値に気づかせる。

まず、導入段階では、日常生活で起こるトラブル場面において自分がどのような行動をとるかを考えさせ、その理由を問うことにより、学習の方向をつかませる。次に展開前段では、資料を2つに分割し、各段階における主人公の行動がどのような気持ち

ちによってとられたのかを考えさせることで、価値の自覚を促したい。そして展開後段では、「思いやりの心」とはどんなものなのかをとらえさせるために、人と接するときに、本当に大切なのはどんな気持ちなのかを考えさせ、価値の一般化を図る。さらに終末段階では、教師の説話として、震災における思いやりの姿を紹介することで、実践への意欲を高めたい。

(4)ねらい

『相手の立場に立って考える』『相手のことを大切に思う』などの思いやりの根底にあるものに気づかせ、思いやりの心を持って生活しようとする心情を培う。

お互いの考えや思いを交流させることで、これまでの自らの生き方や考え方をより深く見つめることができるようにさせる。

7 指導の実際 学習指導過程

| 段階 | 学 習 活 動 と 内 容 | 教 師 の 支 援 |
|------|---|---|
| 導入 | <p>1 日常生活で起こるトラブル場面において自分がどのような行動をとるかを考え、学習の方向をつかむ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友達とグループで遊びに行っているときに、友達のズボンが破れていることに気づいたら、あなたはどうか。なぜそうするのか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教えない。周りにばれたらかわいそうだから。 ・周りの子にばれないように教える。 ・悩む。わからない。どうしても騒ぎになるから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>人と接するとき大切なことは、何かを考えよう。</p> </div> | <p>行動の正しさを問うものではなく、その行動がどんな理由でとられたかを問い返し、注目させる。</p> <p>ここでは、いろいろな気持ちや考えによって、自分の行動がきまっているということのみを押さえる。</p> |
| 展開前段 | <p>2 資料「返事」を通して、主人公の気持ちや考えについて話し合う。</p> <p>資料「返事」を読む。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>母親に対して、主人公はどんな気持ちだったのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・いらいらする。 ・そっとしておいてほしいのに。 | <p>入院当初の場面を補足説明しながら、主人公のいらだちに共感させる。</p> <p>その言動をひと言で表すとどうなるかを補助的に問うことで母親の気持ちを考えない自己中心的なものであることを押さえる。</p> |

手紙を読んだ主人公は、こんなに悩んで何を考えていたのだろうか。

- ・『さきちゃん』がどうしたら喜ぶかを真剣に考えた。
- ・『さきちゃん』のために、自分ができることは何かを一生懸命考えた。

資料「返事」を読む。

返事を読んだ『さきちゃん』の笑顔を見たとき、主人公はどんな気持ちになったのだろうか。

- ・喜んでくれてうれしい。
- ・返事を書いてよかった。

展開
後段

3 「思いやりの心」とはどんなものかを考える。

人と接するとき、本当に大切なのはどんな気持ちなのだろうか。

- ・相手の立場に立って、何ができるかを真剣に考える気持ち。
- ・相手のことを大切に思う気持ち。
- ・相手が何を必要としているか考える気持ち。

終末

4 教師の説話「震災における思いやり」を聞き、これから生き方を考える。

自分は、直接願いをかなえることはできないということは、主人公はわかっているということを押さえた上で考えさせ、ねらいにせまる。相手のことを思って悩んだということなのだろうとまとめて、次の資料にうつる。

価値のもつよさに気づいた主人公の気持ちを感じ取らせる。

この後の母親に対する言動は、どう変わるかを問い返すことで、価値を明らかにする。

主人公の心の動きをもとに、自分たちの体験も思いだしながら考えることを伝える。

思いやりという言葉のみで表現した生徒には、思いやりとは具体的にはどんな気持ちなのかを問い直し、価値の本質に迫らせる。

実践への意欲を持たせるために、学習プリントに「何を大切にしていこうと思ったか」をまとめさせる。

8 研究のまとめ

生徒の感想

人と接するときは、相手の気持ちを考えたりしたらいいと思いました。

相手の気持ちを考えて一番いい方法を探ることが大切ということを知りました。

人の気持ちを大事にしたい。何気ない言葉でも受け取る人からしたら、何倍もうれしいものだということを感じました。

人と接するときは、自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちを考えなければならないと思う。

これからは、人と接するときに相手の気持ちを考えて、相手の立場に立って話したりしようと思った。

授業後の協議内容

| | | |
|-------------------|----------------|-----------|
| 資料の作成・吟味及び提示方法の工夫 | 導入の在り方 | 発問構成と時間配分 |
| 集団作りとの関連性 | 自然性の引きだしと資料の関係 | 道徳的実践力 など |

9 成果と今後の課題

(1) 成果

田川郡の全中学校が、「自他を尊重する心をはぐくむ道徳の時間」という共通テーマで授業実践・研究を行うことで、他者へのかかわり方や望ましい人間関係の構築といった学校・生徒が抱える課題の解決へ向け、道徳教育の重要性を再確認できた。

部会員による公開授業及び協議において、価値をとらえやすい資料の開発や分割・視覚化といった提示方法、導入の在り方、効果的な発問や問い返しの構築といった指導方法の工夫に関する意見交流・研修を行うことができ、指導力の向上が図られた。

各学校での実践をもとに、2の視点・6つの内容項目に関する実践資料集を作成(年度末)することにより、今後の道徳授業の改善に役立つものになると考える。

(2) 今後の課題

「自他を尊重する心」は、短期的な指導によって十分に身につく性質のものではなく、指導の積み重ねが必要不可欠である。今後も「自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図る指導」を一層充実していくことが重要であると考える。

道徳の授業づくりに関して、部会としての研修を継続して行うことは、授業力の向上につながると思われる。次年度以降も検討する必要があると考える。

参考文献

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 | 文部科学省 |
| 『心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開』 | 文部科学省 |
| 『よりよい実践に結びつく道徳教育の在り方』 | 福岡県教育委員会 福岡県教育センター |
| 『道徳教育の新しい展開』 東信堂 | 林 忠幸・堺 正之(編著) |